

課題解決型研究プログラム 自然共生研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|---|
| <p>○本プログラムには、基盤的研究や社会実装型研究が混在しており、多種多様な研究課題がある。各課題は着実に研究成果を上げていると評価できるが、研究計画全体の年度展開の中で、2019年度成果の全体計画での位置づけや価値が明確ではなかった。【年度】</p> <p>○我が国にとって喫緊の課題である管理放棄による植生変化については森林総研などとも連携して、調査に加えて、モデル地域を設定した対策とその検証などを進めてはどうか。【年度】</p> <p>○ヒアリや豚コレラなどの新たな社会問題に対して独自の研究成果を活用した対策が迅速に行われたことを高く評価する。【年度】【見込み】</p> |
|---|

今後への期待など

- | |
|--|
| <p>○生物多様性に対する気候変動の危機に関する研究は今後優先度が高まると思われるので、研究体制の充実を期待する。【年度】【見込み】</p> <p>○生態学的な提案にとどまらず、実装に関係する社会的側面からの検討を加えた、ステークホルダーを含む多様な側面から見た諸課題をクリアするためのアプローチの提案を期待する。【年度】【見込み】</p> <p>○共生の課題は多種多様であるが、一つ一つの成果を総合し、共生とは何かが理解できる成果を期待する。【年度】【見込み】</p> <p>○豚コレラのサーベイランスシステム構築、愛知目標後のポスト 2020 生物多様性対応の政策枠組みへの貢献に期待する。【見込み】</p> |
|--|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <p>① 気候変動の危機に関する研究に関しましては、本 PG で生物的側面での影響研究を強化するとともに、気候変動適応研究 PG とも連携して対応して参ります。</p> <p>② 各要因間の関係やその背後にある社会的要因などを整理し、最終年度のとりまとめに向け、他機関との情報交換も進めて検討して参ります。</p> <p>③ 生物多様性条約のポスト 2020 目標に関して、環境省との議論や生物多様性条約関連会議への出席を行っており、目標策定への貢献とともに目標に対応する研究を進めて参ります。</p> <p>④ 豚コレラサーベイランスに関しては要請に対応できる体制が整いつつあり、その他迅速な対応が必要とされる課題にも適切に対応して参ります。</p> |
|--|